

令和6年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和6年11月25日

配 付 資 料

- 令和6年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】 令和6年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・ P 2
- 【資料2】 伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について・・・・・・・・ P 4
- 【資料3】 令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ・・・・・・・・ P11
(令和6年2月：一部抜粋)
- 【資料4】 再掲：伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）・・・・・・・・ P13
【北部・南部別】
- 【資料5】 伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移・ P14
- 【資料6】 再掲：令和21年度までの伊賀地域の県立高等学校(全日制)の総学級数と
当協議会の協議について・・・・・・・・・・・・・・・・ P15
- 【資料7】 各地域の学科別募集定員の割合（県立私立全日制）・・・・・・・・ P16
- 【資料8】 再掲：全日制高等学校の設置学科と学級数の推移・・・・・・・・ P17
①伊賀市、②名張市
- 【資料9】 再掲：伊賀地域の専門学科と総合学科の学び・・・・・・・・ P19
- 【資料10】 再掲：伊賀地域から主な県立高校進学先への通学費および所要時間等 P20
①伊賀地域県立高校 ②他地域を含む県立高校
- 【別冊資料1】 令和6年度伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果
(対象：生徒)
- 【別冊資料2】 令和6年度伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果
(対象：保護者)

令和6年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

No	区 分	所 属 等	氏 名
1	学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	加 藤 貴 也 か とう たか や
2	有識者 (4名)	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	西 垣 浩 尚 にし がき ひろ なお
3		中外医薬生産株式会社 管理本部総務管理室長	かみ で ゆう こ 上 出 優 子
4		株式会社アサネットワーク 代表	伊 集 基 之 い しゅう もと ゆき
5		オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	加 藤 幸 司 か とう こう し
6	市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	谷 口 修 一 たに ぐち しゅう いち
7		名張市教育委員会 教育長	西 山 嘉 一 にし やま よし かず
8	県立学校長代表 (3名)	上野高等学校 校長	すぎ 杉 英 則 すぎ しか ひで のり
9		あけぼの学園高等学校 校長	なか 中 柴 友 宏 なか しば とも ひろ
10		名張青峰高等学校 校長	みず 水 守 智 士 みず もり きと し
11	小中学校長代表 (2名)	伊賀市立城東中学校 校長	ふた い ひで お 一 井 英 夫
12		名張市立赤目中学校 校長	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘
13	P T A 関係者 (5名)	伊賀市P T A連合会 顧問 (伊賀市立霊峰中学校P T A)	やま 山 下 界 渡 やま した かい と
14		名張市P T A連合会 顧問 (名張市立北中学校P T A)	きた 北 川 昌 司 きた がわ しょう し
15		伊賀地区県立学校P T A協議会 会長 (あけぼの学園高等学校P T A会長)	おか 岡 田 みどり おか だ みどり
16		伊賀市内県立学校P T A 代表 (伊賀白鳳高等学校P T A会長)	みず 水 野 ちえみ みず の ちえみ
17		名張市内県立学校P T A 代表 (名張高等学校P T A会長)	あん 安 藤 美 穂 あん どう 美 ほ
18	教員代表 (2名)	伊賀市立上野東小学校 教諭	かつ 勝 島 大 輔 かつ しま だい すけ
19		名張青峰高等学校 教諭	ふじ 藤 高 照 也 ふじ たか てる や

計 19名

令和 6 年度第 1 回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 6 年 8 月 8 日（木） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

伊賀地域の県立高校の総学級数が、現在の 25 学級規模から、令和 5 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する 15 年先には 11～13 学級規模となることが見込まれる中、当協議会がとりまとめた「令和 5 年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（令和 6 年 2 月）」をふまえ、令和 10 年度以降に想定される当地域の県立高校の学級減への対応の方向性について協議しました。

また、地域の中学生や保護者を対象としたアンケート調査の質問内容や実施方法等について検討しました。

主な意見は次のとおりです。

《県立高校の学びと配置のあり方について》

- 前回の協議会では、「令和 5 年度のまとめ」を策定するにあたり、「各学校が小規模化することでかえって魅力が低下しないか心配している」、「普通科も一定規模が必要であり、早く再編の方向性を示すべきだ」、「少子化の中、学びの質と多様な選択肢の維持を両立することは難しい」といった意見が出されている。これまでと同じ議論の繰り返しにならないよう、学びのあり方ではなく、統廃合を含めた具体的な配置のあり方について協議すべきだ。
- あけぼの学園高校が統合されるという話を周りの保護者から聞くことがある。不登校を経験した子どもたちにとって、あけぼの学園高校のような小規模校が果たす役割はとても大きいため、ぜひ維持してほしい。
- 名張市は交通の利便性がよく、他地域への流出も多いことから、学びと配置のあり方については、伊賀地域だけで考えるのではなく、通学エリアの実態をふまえて議論する必要がある。
- 令和 10 年度にどうするのかではなく、その先も見据えた方向性を議論すべきだ。経営者の視点からすると、先延ばしにするよりも、未来に向けて新しいものをつくるために早期に統合したほうがよい。
- 全日制高校でも通信制の学びを組み合わせることができれば、学校に行きづらい子どもたちも通いやすく、地域から必要とされる学校となるのではないか。
- 他地域でも、学級減に伴って系列やコースを縮小したり、部活動数を減らしたりしたことなどにより、これまでできたことができなくなっている現実がある。学校を残せるなら残したいが、令和 10 年度以降の対応については、やはり再編を視野に入れる必要がある。

また、3 年前までには方向性を出すこととなっているが、子どもたちのことを考えると、少しでも早く方向性を示したほうがよい。

- 毎日通わなくても3年で卒業できる私立の通信制高校へ、公立高校より高い学費を負担してでも入学したいと思う生徒や保護者が増えている。当地域の私立通信制高校の状況と生徒の動向を注視しながら、多様なニーズに公立高校としてどのように応えていくことができるのかを考えることも重要ではないか。
- 県立高校においてもICTを活用した取組が進められているが、校内での活用にとどめずに、遠隔授業などを取り入れれば、交通不便地の生徒もその高校を選んでもくれるのではないか。

《アンケートの内容や実施方法について》

- アンケート対象の保護者には、15年先の学級数よりも、自分の子どもが中学校を卒業するときに見込まれる学級数を示す方がイメージしてもらいやすいのではないか。
- 今後高校に通うことになる小学生の保護者には、協議会での議論を知ってもらうことが大切であるし、できればこの議論に参加できたほうがよい。
- 子どもたちの数が少なくなることで、学校規模が小さくなり教員数も減るのであれば、学校数も減らさざるを得ない状況であることは理解できるが、そのことを周知するためにも全ての保護者を対象としてアンケートを実施してもよいのではないか。
- 2年前の協議会と比べると、統廃合を含めた具体的な配置の話をしていかななくてはならないところまで来たと感じている。踏み込んだ議論をするためにも、これからの子どもたちやその保護者の思いを聞くことは大切である。

伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「通学のしやすさ・距離」(49.8%)、「学校の雰囲気・イメージ」(48.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(46.0%)、「学びたい学科やコースがある」(42.7%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.3%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(54.0%)、「基本的な知識が身につく教育」(46.2%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(44.2%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(43.2%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問10)

多い順に「2～3学級」(41.8%)、「4～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)、続いて「7学級以上」(3.9%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(43.4%)、「30分以内まで」(29.3%)、「90分以内まで」(19.1%)、「120分以内まで」(5.0%)、「121分以上」(3.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について (問12)

「まだ決まっていない、わからない」(39.9%)が最も多く、続いて、「県外」(26.8%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(13.0%)、「地元(現在住んでいる市町)」(9.6%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「学びたい学科やコースがあること」(71.2%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(68.1%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(63.3%)に続いて、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(42.8%)となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

「自ら学び続ける力が身につく教育」(59.5%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(58.8%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(52.9%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(51.8%)を期待している。

(3) 学級の規模について (問10)

多い順に「4～6学級」(51.7%)、「2～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)、続いて「7学級以上」(4.1%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(59.4%)、「30分以内まで」(25.3%)、「90分以内まで」(12.8%)、「120分以内まで」(2.3%)、「121分以上」(0.3%)となっている。

(5) 将来生活する場所について (問12)

「本人の希望次第」(67.0%)が最も多く、続いて、「地元」(8.7%)、「特に考えはない」(8.3%)、「県外」と「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.1%)となっている。

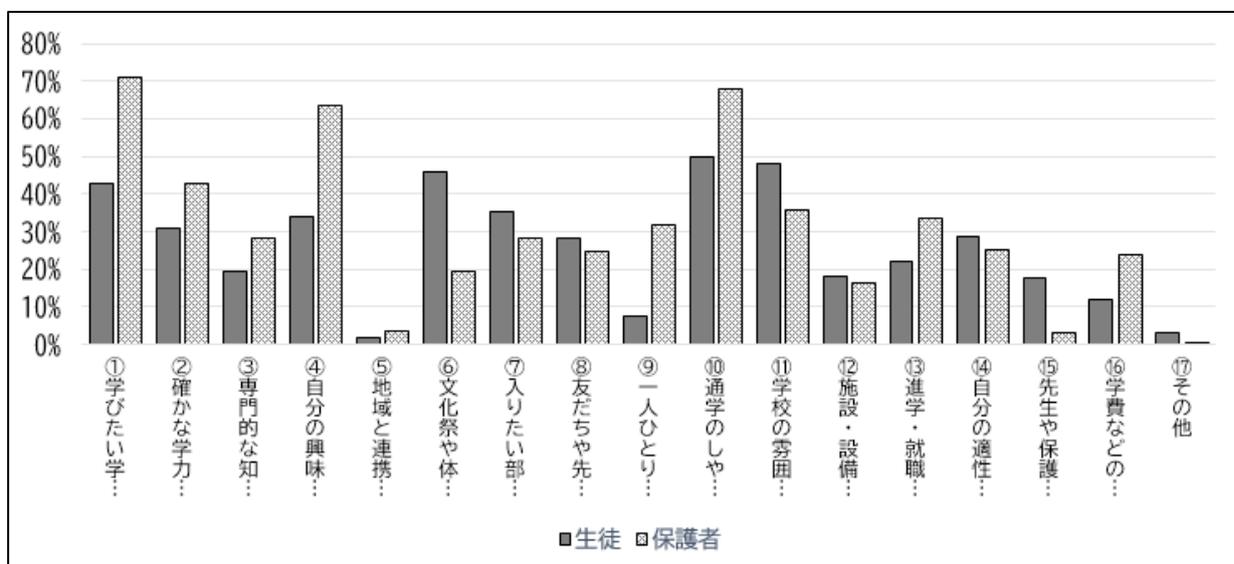
(6) 今後の伊賀地域の県立高校のあり方について (問13)

今後の伊賀地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(61.6%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(33.6%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.8%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

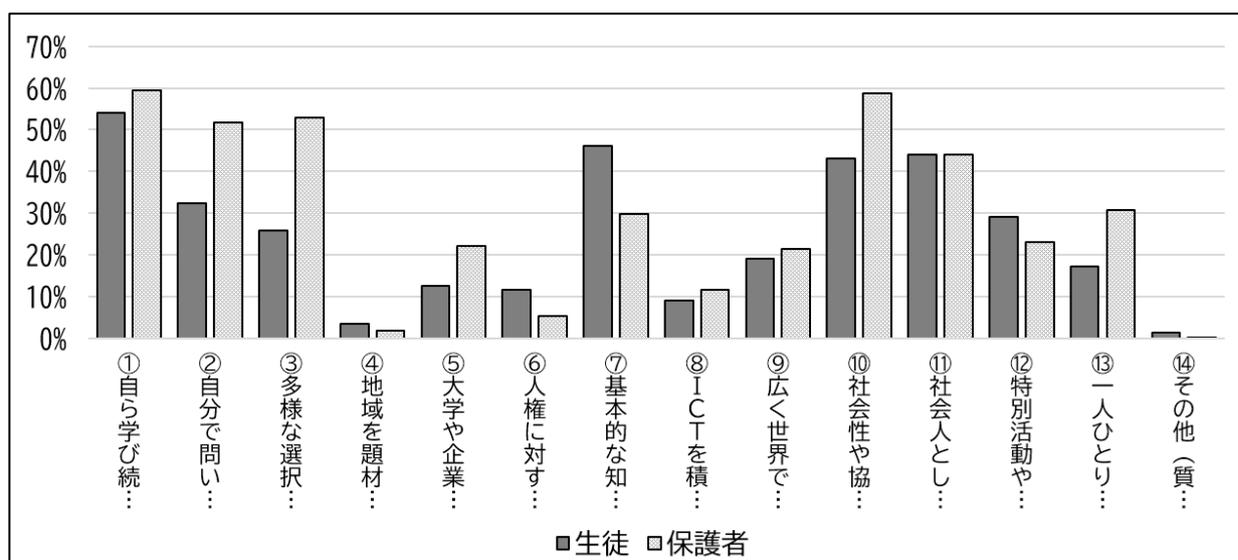
(1) 高校選びに重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象		生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
	順位	割合	人数	割合	人数	割合
① 学びたい学科やコースがある	④	42.7%	453	42.7%	①	71.2%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	30.8%	327	30.8%	④	42.8%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪	19.4%	206	19.4%	⑧	28.4%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	34.0%	361	34.0%	③	63.3%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑰	2.0%	21	2.0%	⑮	3.7%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	46.0%	489	46.0%	⑬	19.3%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	35.3%	375	35.3%	⑨	28.3%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑨	28.4%	302	28.4%	⑪	24.8%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	7.7%	82	7.7%	⑦	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	49.8%	529	49.8%	②	68.1%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	48.0%	510	48.0%	⑤	35.6%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	18.0%	191	18.0%	⑭	16.4%
⑬ 進学・就職の実績	⑩	22.1%	235	22.1%	⑥	33.7%
⑭ 自分の適性や能力	⑧	28.5%	303	28.5%	⑩	25.1%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	17.6%	187	17.6%	⑯	3.3%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	11.9%	126	11.9%	⑫	23.6%
⑰ その他(質問7の自由記述へ)	⑯	3.3%	35	3.3%	⑰	0.5%



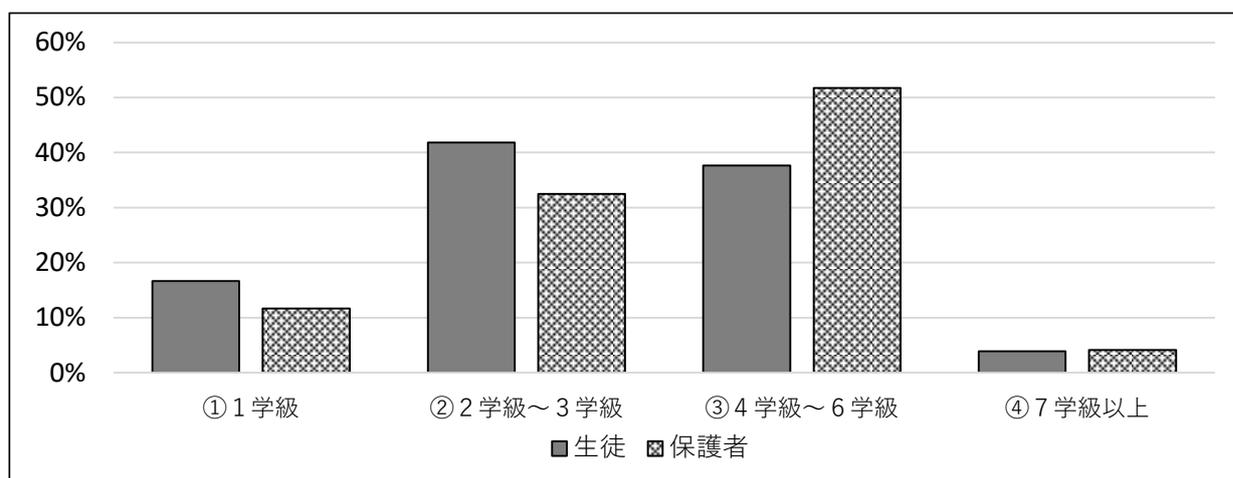
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
		回数	割合	回数	割合
① 自ら学び続ける力が身につく教育		① 573	54.0%	① 652	59.5%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育		⑤ 343	32.3%	④ 568	51.8%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育		⑦ 275	25.9%	③ 580	52.9%
④ 地域を題材として学ぶ教育		⑬ 38	3.6%	⑬ 21	1.9%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育		⑩ 135	12.7%	⑨ 243	22.2%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育		⑪ 125	11.8%	⑫ 60	5.5%
⑦ 基本的な知識が身につく教育		② 491	46.2%	⑦ 328	29.9%
⑧ ICTを積極的に活用する教育		⑫ 98	9.2%	⑪ 128	11.7%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育		⑧ 203	19.1%	⑩ 236	21.5%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育		④ 459	43.2%	② 644	58.8%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育		③ 469	44.2%	⑤ 483	44.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育		⑥ 310	29.2%	⑧ 253	23.1%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育		⑨ 183	17.2%	⑥ 337	30.7%
⑭ その他(質問9の自由記述へ)		⑭ 15	1.4%	⑭ 3	0.3%



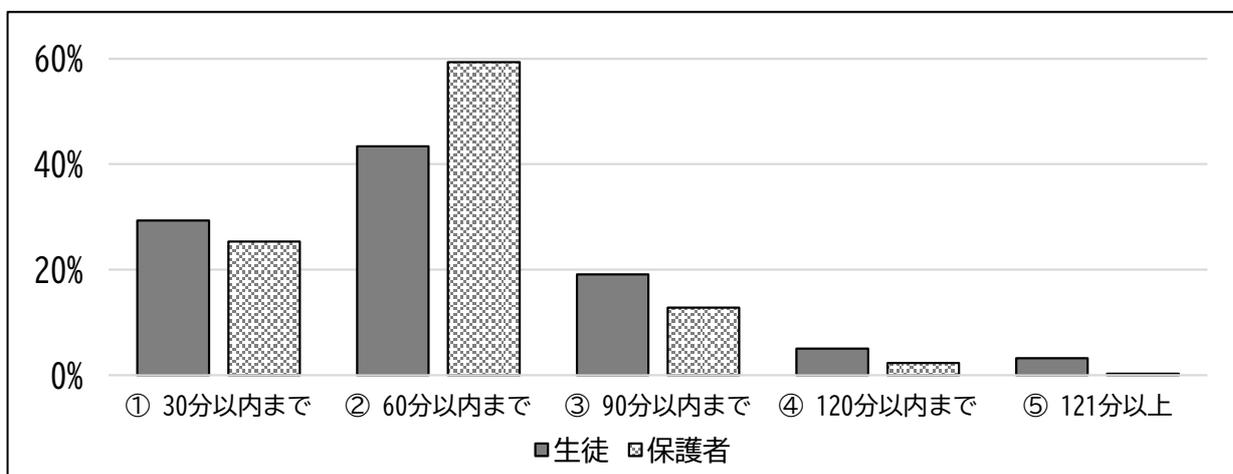
(3) 1学年あたりの学級規模 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
		人数	割合	人数	割合
① 1学級 (40人)		③ 177	16.7%	③ 128	11.7%
② 2学級～3学級 (80～120人)		① 444	41.8%	② 356	32.5%
③ 4学級～6学級 (160～240人)		② 400	37.7%	① 567	51.7%
④ 7学級以上 (280人～)		④ 41	3.9%	④ 45	4.1%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,095人)	
		人数	割合	人数	割合
① 30分以内まで		② 311	29.3%	② 277	25.3%
② 60分以内まで		① 461	43.4%	① 650	59.4%
③ 90分以内まで		③ 203	19.1%	③ 140	12.8%
④ 120分以内まで		④ 53	5.0%	④ 25	2.3%
⑤ 121分以上		⑤ 34	3.2%	⑤ 3	0.3%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1) 「高校選びで重視すること (17 個の選択肢から 6 つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位 6 つに選択された項目のうち、共通するもの

① 学びたい学科やコースがある

生徒 4 位 453 人 (42.7%)、保護者 1 位 780 人 (71.2%)

④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒 6 位 361 人 (34.0%)、保護者 3 位 694 人 (63.3%)

⑩ 通学のしやすさ・距離

生徒 1 位 529 人 (49.8%)、保護者 2 位 746 人 (68.1%)

⑪ 学校の雰囲気・イメージ

生徒 2 位 510 人 (48.0%)、保護者 5 位 390 人 (35.6%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位 6 つに選択された項目

② 確かな学力を身につける授業が充実している

生徒 7 位 327 人 (30.8%)、保護者 4 位 469 人 (42.8%)

⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒 3 位 489 人 (46.0%)、保護者 13 位 211 人 (19.3%)

⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒 5 位 375 人 (35.3%)、保護者 9 位 310 人 (28.3%)

⑬ 進学・就職の実績

生徒 10 位 235 人 (22.1%)、保護者 6 位 369 人 (33.7%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位 2 つ(その他を除く)に選択された項目

⑤ 地域と連携した活動が充実している

生徒 17 位 21 人 (2.0%)、保護者 15 位 41 人 (3.7%)

⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒 15 位 82 人 (7.7%)、保護者 7 位 349 人 (31.8%)

⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒 13 位 187 人 (17.6%)、保護者 16 位 36 人 (3.3%)

(2) 「高校に期待する教育 (14 個の選択肢から 5 つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位 5 つに選択された項目のうち、共通するもの

① 自ら学び続ける力が身につく教育

生徒 1 位 573 人 (54.0%)、保護者 1 位 652 人 (59.5%)

② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒 5 位 343 人 (32.3%)、保護者 4 位 568 人 (51.8%)

⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒 4 位 459 人 (43.2%)、保護者 2 位 644 人 (58.8%)

⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒 3 位 469 人 (44.2%)、保護者 5 位 483 人 (44.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒7位 275人(25.9%)、保護者3位 580人(52.9%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 491人(46.2%)、保護者7位 328人(29.9%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 38人(3.6%)、保護者13位 21人(1.9%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒11位 125人(11.8%)、保護者12位 60人(5.5%)

⑧ICTを積極的に活用する教育

生徒12位 98人(9.2%)、保護者11位 128人(11.7%)

(3) 「1学年あたりの学級規模(1つ選択)」について

生徒は「2学級～3学級」(41.8%)と最も多く、次いで「4学級～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)。保護者は「4学級～6学級」(51.7%)と最も多く、次いで「2学級～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)となっている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒43.4%、保護者59.4%)、「30分以内まで」(生徒29.3%、保護者25.3%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒19.1%、保護者12.8%)、「120分以内まで」(生徒5.0%、保護者2.3%)となっている。

7 今後の伊賀地域の高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会のまとめ）

(1) これまでの経緯

- 伊賀地域の高等学校は、平成5年度に8校が配置され、第1学年の55学級をピークとして以降、学級数は徐々に減少し、令和6年度は5校が配置され、第1学年は25学級（1学級40人として）となっています。
- この間、当協議会では、高等学校の学びと配置のあり方を協議し、伊賀市内の専門高校3校を統合した総合専門高校の設置（H21）や、名張市内の2校を統合した普通科高校の設置（H28）、専門学科における建築に係る学科の設置（H31）について取りまとめてきました。
- その後、令和元・2年度の協議のまとめ（以下、「令和元・2年度まとめ」という）では、県立高等学校のあり方として、次の3点を取りまとめました。

- ① 当面の間、現在の5校を維持
- ② 現在の5校の再編を含めて検討し、その結果を令和7年度頃までに明らかにすることが必要
- ③ 昼間定時制課程の併置を含めた定時制課程のあり方や通信制課程の機能を取り入れた学習形態について検討することが必要

- 令和元・2年度まとめ以降、伊賀地域では、中学校卒業生数の減少に伴い、令和3年度と令和5年度にそれぞれ1学級（40人）の学級減を行っています。
- なお、令和3年度の学級減については、地域の専門学科の学びを維持するため、伊賀白鳳高校において1学級あたりの人数を減らし、学級数を維持することとしています。
- こうした中、本協議会では、令和元・2年度まとめに示された3点をふまえながら協議を深めることとし、これまでの意見や考え方をまとめるとともに、次の資料も共有してきました。

- ・ 中学校卒業生の地域間の移動状況
- ・ 主要駅から地域内外の高校への通学所要時間と通学費等
- ・ 令和4年度に地域内に開校した私立通信制高等学校への進学状況
- ・ 他地域の協議会の状況や国の動き等

(2) 伊賀地域の県立高等学校の学びと配置のあり方の検討の方向性

- 当協議会では、伊賀地域の子どもたちに、社会の変化が激しい中、これからの時代を生きていくため、自立する力と共生する力を育むことが重要であるとしました。また、子どもたちには、コミュニケーション能力や、情報を活用し伝える力を高めるとともに、地域社会への関心を持ち、自ら課題を見つけ協働し解決に向けて取り組み、失敗を恐れず挑戦できるよう育ててほしいとしました。
- この5年間の伊賀地域の中学校卒業生の進路状況は、地域内の全日制県立高校への進学が減少傾向であり7割を切る状況となりました。一方、他地域の全日制高校へは、この2年やや減少したものの約1.5割が進学し、定時制、通信制、高専へは、この2年増加し、約1.5割が進学しています。特に、当地域の中学校卒業生の1割近くが津市内の全日制高校へ進学する状況が続いています。
- 一方、当地域においては、不登校傾向の子どもたち、特別な支援が必要な子どもたち、外国につながる子どもたちなどの多様な教育ニーズへの対応が必要な状況があります。公立の特別支援学校、夜間定時制に加え、近年、地域内に私立の通信制が開校し、当地域からも一定数が進学している状況です。
- こうしたことをふまえ、当協議会は、これからも続く少子化の中、地域の子どもたちができる限り当地域における学びを選択できるよう、学校個別ではなく伊賀地域全体を見通す視点を大切にして、伊賀地域の高等学校の学びと配置のあり方について協議を進めます。
- このことは、現在の当地域の中学校卒業生数の状況や、今後も少子化が継続して進行することをふまえ、これからの子どもたちのため、スケジュール感に注意して機を逸することなく協議を取りまとめていくこととします。

- 協議にあたっては、これまで重ねてきた当協議会での議論や当地域の中学校卒業者の進路状況及びニーズをふまえ、次のことを基本として進めます。

1-1 専門学科のコースや総合学科の系列など多様な学びの選択肢の維持
 -2 普通科の一定規模の維持

- なお、具体的な協議を進める際には、県立高等学校活性化計画に示された考え方に加え、次の視点も大切にし、当地域の実情をふまえた丁寧な議論を行います。

2-1 少子化の中にあっても、消極的な方向ではなく未来に向けて前向きに発想すること
 -2 北部と南部に分けることなく伊賀地域全体で考えること、また、状況によっては隣接する地域も含めて考える必要があること
 -3 役割や機能が近い学校をできるだけ集約させ、スケールメリットを生かすこと
 -4 学校の選択肢を維持できるよう、当面の間は5校を存続すること
 -5 小規模校だからこそ通える生徒へ配慮すること
 -6 通学方法や通学時間、必要となる交通費などの状況を考慮すること

- また、子どもたちの多様な教育ニーズへの対応その他については、次のとおり整理することとします。

3-1 定時制や通信制に係る多様な学びについては、当地域に新たに開校した私立通信制高校に対する生徒の動向を注視していくこと
 -2 生徒の通学については、自治体の通学費の補助制度や各公共交通機関の取組について周知をしていくこと

(3) 今後について（検討のスケジュール等）

- 当協議会はこれまで、他地域に先駆け、伊賀地域の高等学校の学びと配置のあり方をとりまとめてきました。このことは、県立高等学校の活性化の取組となり、急激な少子化の中にあっても未来を前向きにとらえた伊賀地域の学びの実現につながっています。
- こうした中、当地域では平成28年度に現在の5校配置となりましたが、少子化はさらに進行し、令和3年度の学級減では、伊賀白鳳高校において、地域における専門学科の学びの選択肢をできる限り維持するため、学級数はそのままにして定員のみを減じることとしました。
 $(40人 \times 7学級 = 280人定員 \rightarrow 35人 \times 6学級 + 30人 \times 1学級 = 240人定員)$
- これにより伊賀白鳳高校は6学級規模の教員数で7学級を維持することから、学科内のコースの削減や教職員への負担増など、少なからず学びや学校運営への影響が生じています。
- このことから、当地域においては、現状の学びの選択肢を維持しながら、今後の学級減へ対応することが難しくなっています。
- 今後の当地域の中学校卒業者数は、令和5年3月卒と比較すると、令和8年3月卒は2学級程度の、令和10~14年3月卒は5年間継続して毎年1学級程度の定員減が見込まれ、合わせて7学級程度の学級減の可能性があります。
- 特に、伊賀北部では、令和5年3月卒と比較して、令和7~14年3月に段階的ではあるものの合わせて5学級程度の学級減の可能性があります。
- このことは、令和5年度現在、伊賀北部3校あわせて560人の定員が、令和14年度には360人（9学級）程度となることを意味し、今後の対応が非常に難しい状況です。
- こうしたことから、当協議会では、現在の学校の状況と少子化の進行をふまえ、伊賀地域の高等学校でこれからの子どもたちに必要となる学びを実現するため、当地域の高等学校の学びと配置のあり方について、検討の方向性を基本として協議を進め、機を逸することなく意見を取りまとめていくことが必要です。協議にあたっては、中学生やその保護者を対象としたアンケートを実施し、その結果もふまえて検討することとします。
- 多様な教育ニーズに応じた学びの検討については、引き続き、令和4年度に開校した私立通信制の状況と生徒の動向に注視していくこととします。
- なお、これまでの協議をふまえ、令和7~8年度に想定される学級減に対しては、検討の方向性に基づき5校の維持が望ましいと考えます。また、令和10年度以降の学級減に対しては、現在の5校の再編を含めて検討し、その結果を令和7年度までに、当協議会の考え方としてとりまとめます。

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

(令和6年度第1回協議会【資料9②】再掲)

資料 4

令和6年5月1日 教育政策課課調へ

中学校卒業年月	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3
卒業生数	708	738	718	714	674	651	658	624	602	588	563	526	507
前年度対比		30	-20	-4	-40	-23	7	-34	-22	-14	-25	-37	-19
R6.3対比					-40	-63	-56	-90	-112	-126	-151	-188	-207
①公立小中在籍者数	(662)	(676)	(659)	(656)	611	603	615	617	596	580	555	520	501
②私立小中在籍者数	(46)	(62)	(59)	(58)	55	32	24						
卒業生数	721	717	703	694	762	706	706	698	670	631	619	629	569
前年度対比		-4	-14	-9	68	-56	0	-8	-28	-39	-12	10	-60
R6.3対比					68	12	12	4	-24	-63	-75	-65	-125
③公立小中在籍者数					759	704	705	732	701	662	648	659	596
卒業生数	1,429	1,455	1,421	1,408	1,436	1,357	1,364	1,322	1,272	1,219	1,182	1,155	1,076
前年度対比		26	-34	-13	28	-79	7	-42	-50	-53	-37	-27	-79
R6.3対比					28	-51	-44	-86	-136	-189	-226	-253	-332
①②③小中在籍者数					1,425	1,339	1,344	1,349	1,297	1,242	1,203	1,179	1,097

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	27	26	26	26								
() 内は入学定員の計	(1,040)	(1,040)	(1,000)	(1,000)	(1,000)								

※ 伊賀北部=伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部=名張市に旧青山町を加える。

(参考)

卒業生数	15,777	16,244	16,055	15,891	15,712	15,488	15,241	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
前年度対比		467	-189	-164	-179	-224	-247	-472	-365	-404	49	-607	-650
R6.3対比					-179	-403	-650	-1,122	-1,487	-1,891	-1,842	-2,449	-3,099
小中学校在籍者数					15,683	15,463	15,226	14,884	14,500	14,123	14,159	13,548	12,890

令和21年度までの伊賀地域の県立高等学校(全日制)の総学級数と当協議会の協議について

資料6

令和7年度(現中3)
地域の中学校卒業予定者数
1,437人(前年度比+29)
募集定員1,000人

令和8年度(現中2)
地域の中学校卒業予定者数
1,358人

令和10年度(現小6)
地域の中学校卒業予定者数
1,321人

令和15年度(現小1)
地域の中学校卒業予定者数
1,076人

令和21年度
地域の中学校卒業予定者数
730人

25学級規模

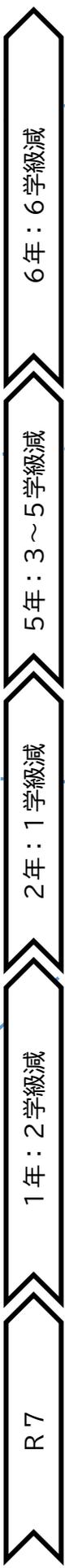
上野高校	(普6)
あけぼの学園高校	(総2)
伊賀白鳳高校	(専7)
名張高校	(総5)
名張青峰高校	(普6)

23学級程度
伊賀地域の
県立高校
(全日制)

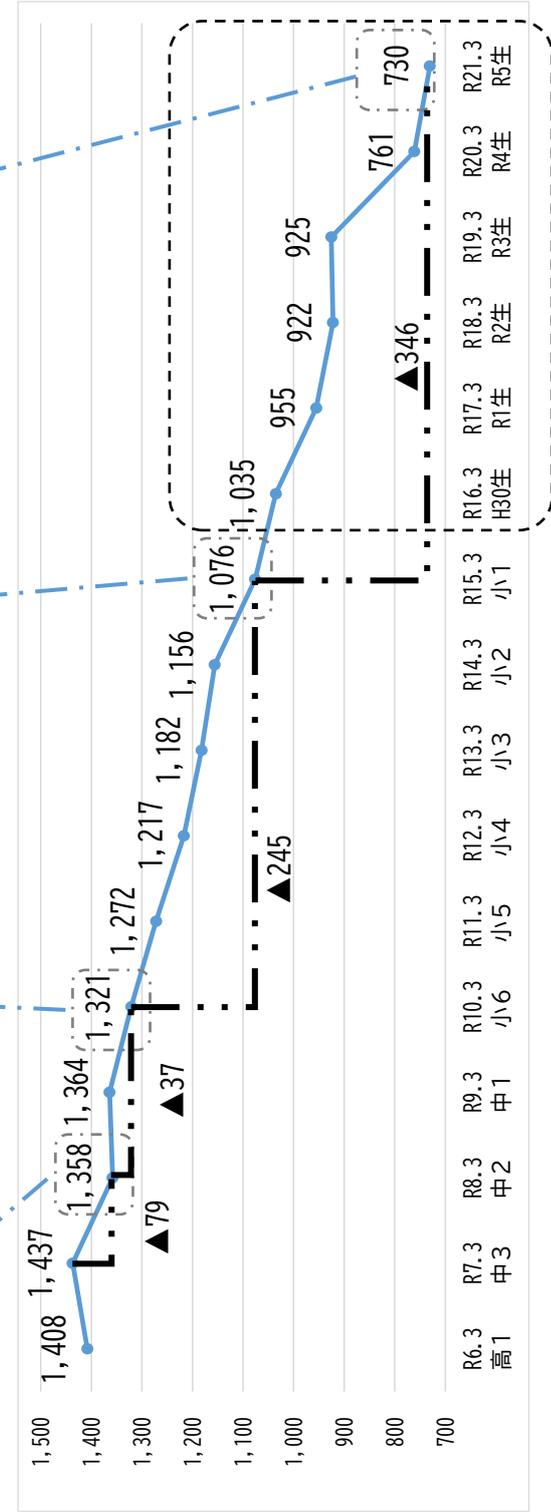
22学級程度
伊賀地域の
県立高校
(全日制)

17~19学級程度
伊賀地域の
県立高校
(全日制)

11~13学級程度
伊賀地域の
県立高校
(全日制)



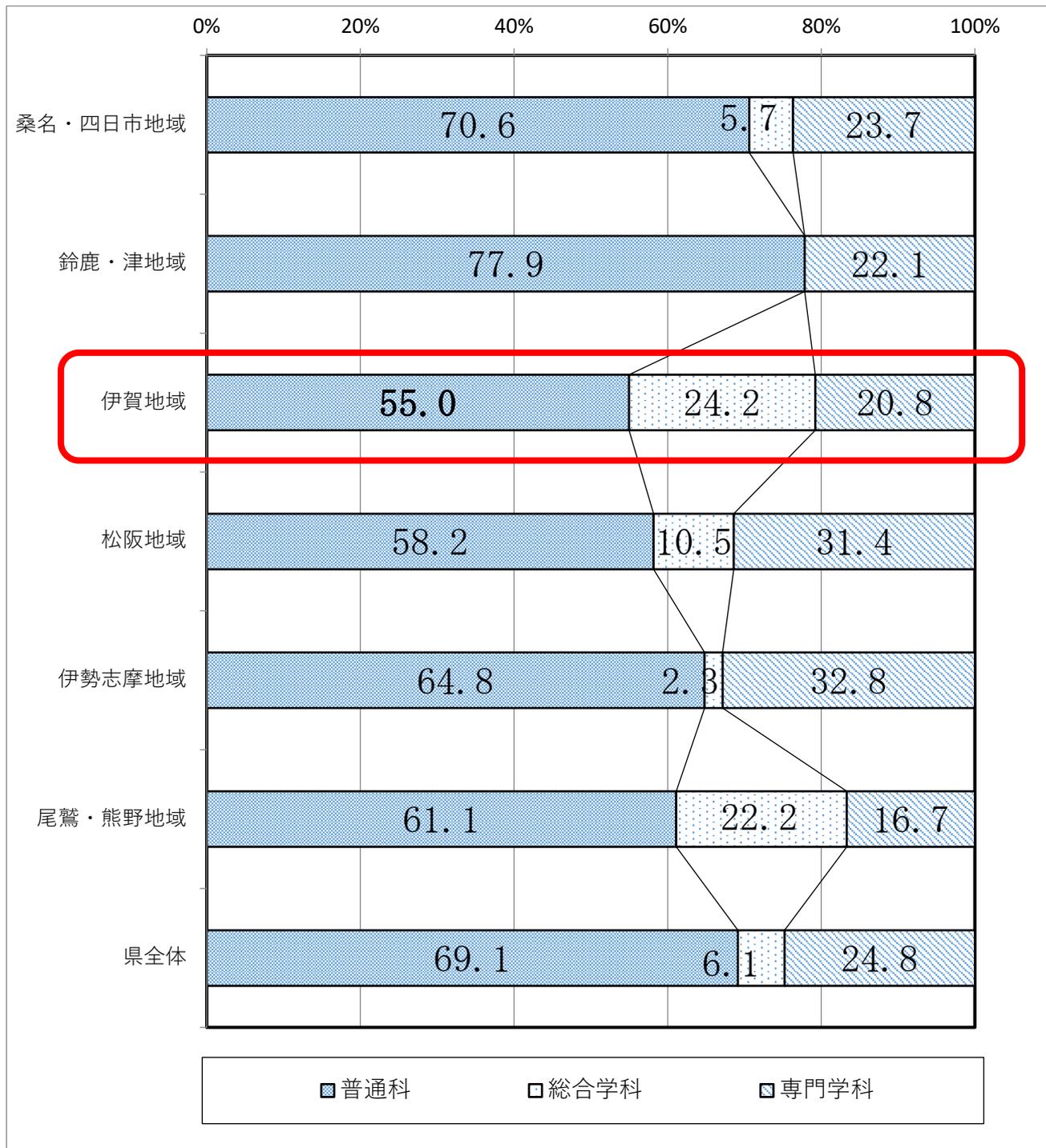
学級減への対応方針
【R5協議会のまとめ(抜粋)】
令和10年度以降の学級減
に対しては、現在の5校の
再編も含め検討し、その結
果を令和7年度までに、当
協議会の考え方としてとり
まとめる。



各地域の学科別募集定員の割合(県立私立全日制)

資料 7

※ 令和7年度県立および私立高校合計



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
上野	普通																			
	普通																			
	普通																			
	普通																			
あけぼの学園	普通																			
	普通																			
	普通																			
	普通																			
上野農業	総合																			
	総合																			
	総合																			
	総合																			
上野工業	食農科学																			
	景観園芸																			
	機械																			
	電子機械																			
上野商業	仕理師工学																			
	情報ビジネス																			
	健康生活																			
	福祉																			
【学級数】	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	
	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
普通科系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専門学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【学級数】	35人×2学級																			
	35人×3学級																			
	30人×1学級																			
	35人×1学級																			

資料8①

普通科改革による学科改編
普通5 ⇒ 学際探究4
理数1 ⇒ 理数2

現在の普通科系以外の
学びのバリエーション

4系列

- ・美容服飾系列
- ・製菓調理系列
- ・情報教養系列
- ・健康福祉系列

7学科11コース

- ・生物資源科
- ・フードサイエンスコース
- ・パティシエコース
- ・機械科
- ・ロボットコース
- ・電気工学科
- ・建築・インテリアコース
- ・デザインコース
- ・経営科
- ・介護福祉コース
- ・生活福祉コース

【R3～】
35人・30人学級を導入

【R4～】 ▲2コース
7学科13コース⇒7学科11コース

3校を統合して
伊賀白鳳高校開校

資料 8 ②

現在の普通科系以外の
学びのバリエーション

4系列9専攻

文理アドバンス系列
・人文専攻
・看護医療専攻

総合ビジネス系列
・ビジネス専攻
・情報処理専攻

健康スポーツ系列
・健康スポーツ専攻

表現デザイン系列
・美術専攻
・音楽専攻
・ファッション専攻
・映像専攻

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
名張	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合											
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合											
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合											
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合											
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合											
名張桔梗丘	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	情報	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語										
名張西	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通											
	情報	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語										

【6系列】
人文学
科学
入ホーツ
商業
生活
芸術
デザイン
芸術
デザイン
芸術
デザイン

【4系列】
文理アドバンス
総合ビジネス
健康スポーツ
表現デザイン

2校を統合して
名張青峰高校開校

【学級数】

普通科	11	11	11	10	9	9	8	6	7	7	7	6	6	5	5	5	5	5	5
英語科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
文理探究	-	-	-	-	-	-	-	-	6	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5
総合学科	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
工業	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料9

伊賀地域の専門学科と総合学科の学び

専門学科の学び

総合学科の学び

【伊賀白鳳】		
学科	学科名	コース名
工業	機械	機械
	電子機械	ロボット
		電気工学
	デザ ^{建築} ザイン	建築・インテリア
デザイン		
農業	生物資源	生物資源
	シフ ^{フード} ステム	フードサイエンス
		パティシエ
商業	経営	経営
福祉	ヒュー ^{マン} サービスマン	生活福祉
		介護福祉

【あけぼの学園】		【名張】	
系列名	系列名	専攻	
		表現 デザイン	美術
製菓調理			
情報教養	総合 ビジネス	ビジネス	情報処理
健康福祉	健康 スポーツ	健康スポーツ	
美容服飾		表現 デザイン	ファッション
			音楽
			映像
	人理 アドバンス	人文	看護医療

伊賀地域から主な県立高校進学先への通学費および所要時間等

(1) 伊賀地域県立高校

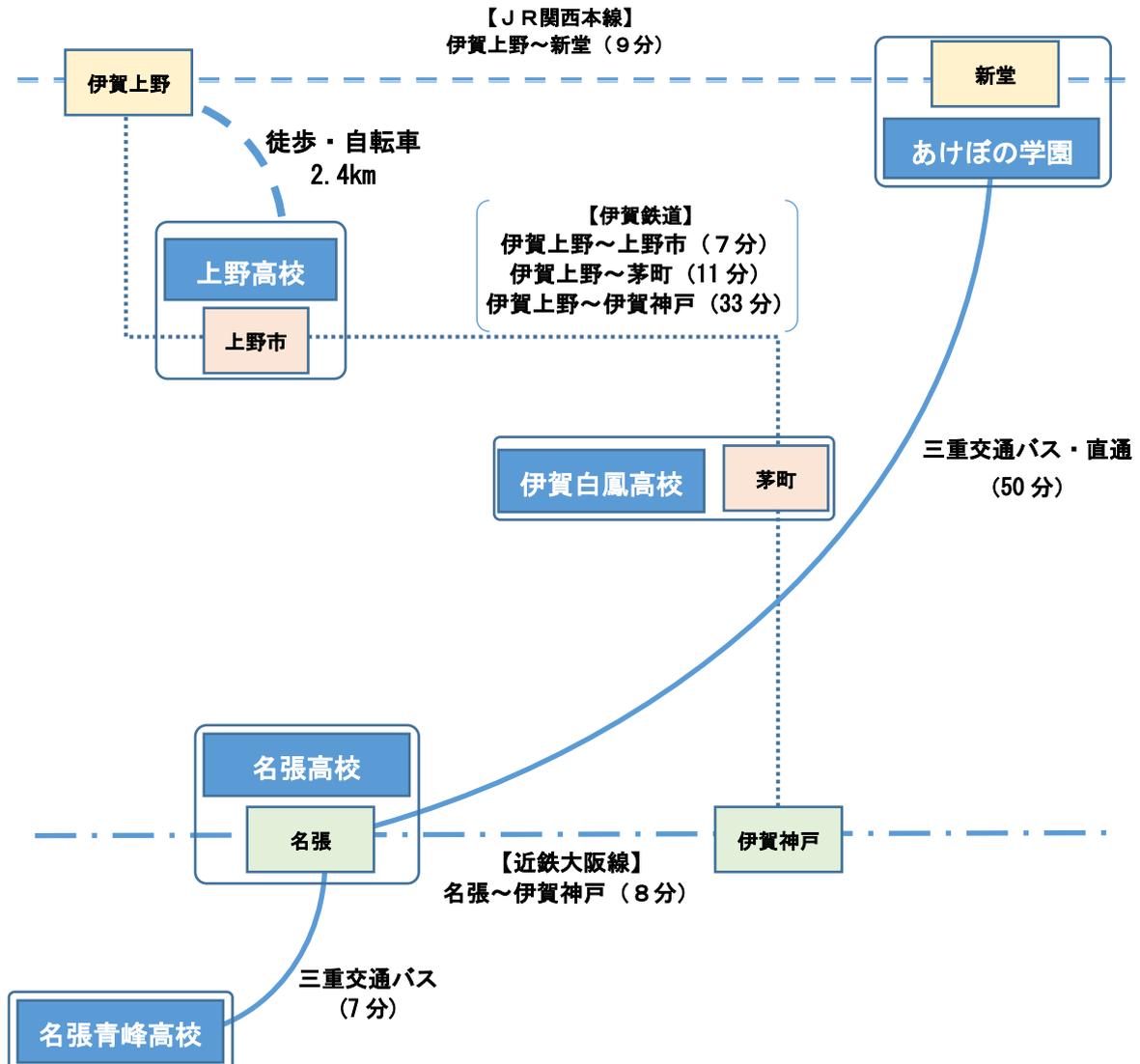
①伊賀上野駅発

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円

②名張駅発

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
名張	14分	徒歩	0円
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
あけぼの学園	50分	三重交通バス・直通 (通学フリー)	13,000円

※伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成 (1/2 補助) を適用



(2) 他地域を含む県立高校

①伊賀上野駅発

【費用順】

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
亀山	1時間06分	JR関西本線・徒歩	7,438円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
松阪	1時間37分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円
津	1時間47分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円 ○
津東	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,826円 ○
白子	1時間56分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	9,023円 ○
四日市	2時間10分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	9,518円 ○
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円
津西	1時間55分	伊賀鉄道・JR関西本線・三重交通バス・徒歩	12,493円 ○
白山	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	12,998円
久居	1時間40分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	13,961円

【時間順】

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
亀山	1時間06分	JR関西本線・徒歩	7,438円
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円
四日市	1時間29分	JR関西本線・徒歩	12,270円 ○
津東	1時間38分	JR関西本線・徒歩	9,990円 ○
松阪	1時間37分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円
津	1時間39分	JR関西本線・近鉄・徒歩	12,510円 ○
津西	1時間40分	JR関西本線・三重交通バス・徒歩	13,657円 ○
久居	1時間40分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	13,961円
白子	1時間47分	JR関西本線・近鉄・徒歩	14,670円 ○
白山	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	12,998円

※検索条件 学校到着時間を8時40分
 特急不使用
 通学定期券(3・6・12カ月)を、1カ月に割戻して計算
 伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成(1/2補助)を適用
 費用と時間では複数経路がある場合、安いまたは早い順として調整(○印)

②名張駅発

【費用順】

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたり の通学費
名張	14分	徒歩	0円
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
松阪	1時間09分	近鉄・徒歩	5,527円
津	1時間13分	近鉄・徒歩	5,527円
津東	1時間22分	近鉄・徒歩	5,527円
白子	1時間24分	近鉄・徒歩	5,823円
四日市	1時間39分	近鉄・徒歩	6,220円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
津西	1時間24分	近鉄・三重交通バス・徒歩	9,193円
白山	1時間07分	近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	9,762円
久居	1時間07分	近鉄・三重交通バス・徒歩	10,762円
あけぼの学園	1時間27分	近鉄・伊賀鉄道・JR関西本線・徒歩	11,504円 ○
亀山	1時間56分	近鉄・JR・徒歩	11,615円

【時間順】

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたり の通学費
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
名張	14分	徒歩	0円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
あけぼの学園	50分	三重交通バス・直通(通学フリー)	13,000円 ○
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
白山	1時間07分	近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	9,762円
久居	1時間07分	近鉄・三重交通バス	10,762円
松阪	1時間09分	近鉄・徒歩	5,527円
津	1時間13分	近鉄・徒歩	5,527円
津東	1時間22分	近鉄・徒歩	5,527円
白子	1時間24分	近鉄・徒歩	5,823円
津西	1時間24分	近鉄・三重交通バス・徒歩	9,193円
四日市	1時間39分	近鉄・徒歩	6,220円
亀山	1時間56分	近鉄・JR・徒歩	11,615円

※検索条件

学校到着時間を8時40分

特急不使用

通学定期券(3・6・12カ月)を、1カ月に割戻して計算

伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成(1/2補助)を適用

費用と時間では複数経路がある場合、安いまたは早い順として調整(○印)